

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271000216		
法人名	株式会社ケアサービス・まきの実		
事業所名	グループホーム堂の下ガーデン		
所在地	千葉県館山市船形827-11		
自己評価作成日	平成25年3月18日	評価結果市町村受理日	平成25年5月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ACOPA
所在地	千葉県我孫子市本町3-7-10
訪問調査日	平成25年3月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

堂の下ガーデンでは、入居者様とのかかわりを大切にし、楽しく安心して生活して頂けるように常に取り組んでいます。また、各委員が主となり勉強会を行い技術や知識の向上に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2年前から構築を進めてきたLANの運用が始まり、法人共通の介護ソフト「ちょうじゅ」の活用などで、現在は特に医療との連携の分野でリアルタイムな情報共有によるサービスの向上に大きく寄与している。より質の高いサービスの提供を目指すための基盤ができたことは今後の発展の原動力として大きな可能性を秘めている。「利用者を中心に」という管理者の情熱とリーダーシップで職員間のコミュニケーションも良く、理念に沿った実践ができています。ホームに対する地域の方の理解も深まっており、利用者の安全で楽しい生活が着実に進化している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしく、楽しく生活ができるグループホーム」を基本理念として掲示し、各自意識を持って行っている。	当グループホーム独自の基本理念と、運営に関する基本方針を玄関に掲げて行動指針とし、信念を持って日々の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ボランティアによる踊り、太鼓の演奏や幼稚園の発表会、地域会議、防災訓練に参加している。	地域のボランティアの積極的な参加が得られている。ホームの菜園もボランティアの協力で管理している。町会の集まりではホームの状況などを説明し、地域の方の理解を深める努力をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の会議に参加したり、ボランティアの方に来所して頂いて太鼓の演奏や踊りの披露を通して交流を深めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センターとの連携を密にし、地域の方々への交流を図っている	家族代表や区長、2つの地域包括支援センター、館山市高齢者福祉課、民生委員等の参加を得て年に4回開催している。家族や地域とのコミュニケーションの強化に全力で取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認定調査、運営推進会議にてコミュニケーションを図り協力関係を図っている。	運営推進会議や機会をとらえて連携の強化に努めている。運営母体であるケアサービス・まきの実の本部と連携した対応も行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング時に全てのスタッフに理解を促すよう研修を行い、玄関の施錠は夜間のみ行っている。	身体拘束しないことの意義は職員間で共有できており、方針が徹底されている。外出した利用者を知らせてくれるなど、地域の方の協力も得られるようになってきている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修会を行い、事例を通じ事業所内で検討し見過ごされない様常時務めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティング時に勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書をもとに説明し都度、疑問質疑に対応している。入居後のご本人様ご家族様へのサポートをし説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にてご家族の要望を伺い第三者にも内容が伝わるよう行っている。利用者様についてはご家族様を交え意見を伺い対応している。	運営推進会議での家族からの意見を尊重している。年2回の家族会には50～60名の参加があり、コミュニケーションをとる絶好の機会ともなっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に意見交換を行い対応している。	独自の連絡帳がよく機能しており、いつでも自由に意見が出せる仕組みができています。出された疑問や意見に対しては誰でもコメントを記入でき、最後に管理者がまとめる形式で、意見が放置されない点が優れている。	現在は紙ベースのツイッターのような形だが、立ち上げたLANを活用して、さらにリアルタイムに情報を共有できるような方向に発展されることを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課での評価を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修会、勉強会また外部からの研修を受け入れ、自主参加を促し自己の成長を高めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各種の研修会、委員会に参加することで横のつながりを作り、コミュニケーションを図る機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の要望、不満や不安を都度傾聴し安心した生活を送ることができるよう対応をし、ゆっくり信頼関係を築けるよう対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら関係づくりに努め、信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他サービスの利用も含め必要な援助、支援内容を見極め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活であると共に入居者様、職員共に支え生活ができるよう築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時間を制限をせずいつでも会える環境づくりを行い、またご家族様への連絡も適時行い、ご家族様にしかできない事をお願いし共に支えあう環境づくりにも努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様が大切にされてきた方などをご本人様、ご家族様に伺い、いつでも面会に来て頂けるよう依頼をしている。また、要望に応じて外出対応を行っている。	知人に来訪を依頼をしたり、外出の際墓参りに寄るなど対応している。地元神社への初詣、節分や七夕・餅つきなど子どもの頃から親しんだ行事を取り入れている。また、入居者様の不穏時には、個別対応にて、慣れ親しんだ「房州弁」でやりとりする時もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の生活、バックグラウンドを把握し落ち着いて過ごせる人間関係作りにも努めている。また集団生活で発生する感情なども留意し個々の感情に合わせた対応を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	随時確認し、入居者様本位の生活ができるよう努めている。	普段の会話や表情・仕草などから意向の把握に努めている。本人が何かの行動をした時に、何をしたいのかを見極める、直前の会話を思い出してみるなどして、本人の思いを汲み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様が安心して生活できるよう生活暦の情報共有を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケア記録、申し送り等で常時確認し努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なモニタリングをチームで行い、現在の様子、今後についての意見交換を行い、状態変化時は常時話し合い検討をし介護計画を作成している。	利用者担当制を採っている。本人・家族の希望と生活歴、毎日の様子等を基に職員会議で話し合い、現状に即した介護計画を作成している。モニタリングは3か月毎および状態変化時に行い、介護計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録、担当者会議の用紙や画像を活用し情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態の変化情報収集と適時検討にて見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議、地区の行事参加にて情報収集や交流を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診察にて状態の報告、その旨をご家族様に伝え、また主治医以外のかかりつけ医との連携をとっている。	月2回のホームの主治医の訪問診察や、歯科医や看護師、薬剤師等の訪問がある。また主治医以外のかかりつけ医との連携をとっている。24時間オンコール体制があり緊急時に備えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	365日、24時間いつでも連絡が取れる体制ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体が病院であるため情報の共有を随時行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に方向性を確認し、その後も必要に応じてご家族様の意向を確認している。	入居時に方向性の確認を行い、事業所の方針を説明している。重度化に際しては都度家族の意向を確認しながら 本年度も何人かの方を見送った。チームケアの取り組みで、最後まで自分らしく過ごして頂けたことに家族から感謝が寄せられ、職員の意識も高まっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的にミーティングで勉強を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練実施。また、地域の防災訓練に参加し協力をお願いしている。	消防署協力の総合防災訓練と法人全体の秋の一斉防災訓練を行った。本館・新館とも25年度中にスプリンクラーの設置を予定している。災害時の地域の協力をお願いしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	相手を敬う気持ちを持ち関わりを大切にしている。	一人ひとりを敬う気持ちで接している。苗字で呼びかける、敬語で話すなど言葉使いを大切にしている。特にトイレや入浴時等にはプライバシーに配慮した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の表情、様子から思いを汲み取り、関わりをもち自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どの時々の様子、状態の変化に対応する様心掛け一人ひとりのペースを大切に支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方の趣味やお気に入りなどを考慮支援している。外出の際に衣類を一緒に選ぶなどし自己決定の場を設けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事内容や彩を考慮し目でも楽しめるように工夫している。食事の際は一緒に会話したり、食後の片付けも見守り中心に一緒に行っている。	地元の採れ立ての食材を使った出来立ての料理は、利用者に好評である。リクエストメニューや行事食、外食などを組み合わせバラエティのある食事の楽しみを支援している。下膳や片付けなども一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方の状況に合った食事形態を提供し状況変化に合わせて都度検討し対応している。季節にかかわらず水分強化に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後等適時行っている。また定期的に訪問歯科を取り入れ口腔内の状態を確認、清潔保持を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の状態に合わせてその方に合った、負担とならない排泄方法を都度検討し対応している。また、「ちょうじゅ」を活用排泄パターンを把握し、排便コントロールも適時行っている。	個々の排泄パターンを把握し、夜間はオムツでも昼間は布パンツやリハパン・パッドを使用し、トイレやポータブルトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容の工夫、水分強化、適度な運動、整腸剤や下剤の調整にて個々に合った対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は設けているが、ご本人の希望より随時入浴が出来るように準備が出来る。	入浴は週2回を基本としている。自立して入浴できる方は希望に沿って、随時入浴が出来る。夏場はシャワー浴を楽しむことが多い。入居年数も長くなり機械浴の方も増えて来ている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様のその日の状態に合わせていつでも、休息できるように心掛けている。また夜間時間で休むわけではなく、入居者様の睡眠時間に合せた対応を心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師が処方時都度処方箋の確認と、新規の薬服用にあたり状態の変化等十分留意している。また、服薬拒否の場合は関わりを工夫し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の生活歴や趣味、楽しみを考慮し個々に合った対応を心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に外出の機会を設けている。また、ご家族の協力も得ながら外出を楽しんで頂いている。	天気の良い日は外気浴を兼ねて散歩に出かけている。花見や紅葉狩りなどの季節毎のお出掛けや海岸までドライブするなど、なるべく戸外に出る機会が多くなるよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭は施設預かりとなっているが、買い物、外食の際は社会性を維持する為に支払い等を行う機会を作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の掛け方、手紙の書き方または代筆など適時行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の立場に立ち使いやすさ居心地の良さなど随時考慮し対応している。 また、装飾品などで季節感を味わえるよう対応している。	玄関や居間には、利用者の作品や観葉植物・花等が飾られている。天窓が部屋全体を明るくして、天井の高い居間は落ち着いた雰囲気である。オープンキッチンからは調理の湯気や匂いが上がり、家庭の台所が連想される雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様が自由に過ごせる環境づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具などを持参して頂き、落ち着いた生活が出来るように対応している。	使い慣れた馴染みの筆筒や小物などを持ち込み好みに配置し、入居前からの生活の継続が図れるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所の表示や見守りを中心とした声掛けにより自立した生活を心掛けている。		